



福島県 相馬市の子ども達のために

# 絵本棚を つくりましょうよ

2012年  
6月17日

## 「3.11 こども文庫」について

版画家 蟹江杏が「3.11東日本大震災で傷ついたこども達のために、絵のできることを」と呼びかけ、世界中からは画材が、日本中からは1万冊以上の絵本が届きました。

そしてついにこども達に送られた絵本を収蔵する「3.11こども文庫」を相馬市に設立することが決まり、9月オープンに向けて準備が進んでいます。

**そこで、みんなで本棚をつくり、  
相馬市のこども達に届けたいと思っています。**



## 私を救ってくれた絵本

私はここ数年、子どもたちと一緒に絵を描く事をしてきました。それは子どもの絵がすきだからです。いつも彼らは私に刺激を与えてくれました。その絵をみれば描く事のヒントをくれました。

津波を知った時、なぜだろう？ 自分でも不思議ですが、子どもたちを思いました。

私は母ではありません。自分勝手に、自分の絵の事ばかり考えて生きてきました。けれど、小さな頃、幾度かの辛い局面に当たった時、幸運にも私のまわりの優しい大人たちは、絵本を私にくれました。おかげで私は、時々絵本に救われた経験があります。

ページをひらけば、物語や色とりどりの絵は、辛い事柄から、見たこともない、とても素晴らしい世界へつれていってくれました。だからあの時、子どもたちに絵本を送ろうと、真剣に思いました。

同時に幼いころの私は、描く事でも救われました。だから、こんな時だからこそ子どもたちと、一緒に描きたいと思いました。

この活動は、私の思いや経験の押し付けかもしれないと、思う時もあります。けれど、相馬の子どもたちは、こんなにも、素直な絵を描いてくれました。悲しい絵かもしれませんが、どの絵も目を凝らして見れば、確実に小さな芽を見つける事ができます。

どうか多くの皆様、彼らの小さなメッセージにふれて下さい。そして、子どもたちの為の小さな絵本の文庫設立にご協力していただける事を、私は強く願っています。

3.11こども文庫 理事長・版画家 蟹江杏